

令和2年度学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	5 1	学校名		県立土浦湖北高等学校				課程	全日制普通科			学校長名		大 和 田 綾 子			
教頭名	中 野 雅 一											事務長名		古 澤 洋 子			
教職員数	教諭	41	養護教諭	1	常勤講師	2	非常勤講師	2	実習教諭,実習講師,実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	57	
生徒数	小学科		1 年		2 年		3 年		4 年		合計		合計クラス数				
			男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	18				
	普 通 科		106	134	103	130	120	119			329	383	712				

2 目指す学校像

- ・文武両道を柱とする活力ある進学校
- ・校訓である「自律・創造・奉仕」の実践を通して、地域・社会に貢献する人材育成
- ・信頼と魅力あふれる開かれた学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項 目	現 状 分 析	課 題
学 習 指 導	多くの生徒が授業に真剣に臨み、放課後の進学課外授業に積極的に参加している。しかし、全生徒の平日の平均家庭学習時間は44.3分、家庭学習を「ほとんどしない」と回答した割合は30.9%であり、家庭学習の習慣が定着しているとは言えない状況にある。	・あきらめずに学び続ける生徒を育成するための授業実践が必要である。 ・主体的・対話的で深い学びの視点による授業研究を継続する必要がある。
進 路 指 導	令和2年3月卒業生の進学実績は81.4%（大学・短大44.1%、専門学校等40.3%）で、年度当初の希望に対し大学短大が7.2%の減少、専門学校等が7.7%の増加となった。一般受験まで粘れる生徒が少なく、AOや推薦に流れてしまう生徒が多い。最後まであきらめずに積極的に受験に挑戦する生徒が少ない。	・生徒の進路意識を高め、進路目標を明確にし、目標実現のために努力を継続させる指導を行う必要がある。 ・自分で決めて、決めたことに責任を持てる進路意識の高い生徒を育成する必要がある。
生 徒 指 導	生活態度に大きな問題のない生徒が多いが、服装・頭髪や交通マナー等の規範意識が低い生徒もいる。	・規範意識を高め社会性を育成するため指導の工夫と継続の必要がある。
特 別 活 動	部活動は活発で、成果も上がっている。生徒会行事等も多彩で積極的に活動している。校外活動等の機会も増えてきており、生徒会役員を中心に活動している。	感謝する気持ちを持てる生徒の育成のために、奉仕活動などの機会を設けたり、体験的活動を導入する必要がある。

働き方改革	業務の平準化が進まず，一部の教員に過重な負担がかかっている。部活動指導や成績処理，年度初めや年度末に業務が集中してしまう傾向にある。	教職員の意識改革を行い，協働意識の醸成を図り，チームとしての職場環境作りを行う必要がある。
-------	--	---

4 中期的目標

1	自ら学習する態度を育成し，学び続ける生徒の育成を目指す。
2	生徒一人一人に応じた進路指導を充実させる，自分で決められる生徒を育成する。
3	規範意識および安全に関する意識を高め，豊かな人間性・社会性を身に付けさせる。
4	素直に感謝する気持ちを育て，豊かな人間性を推進する。
5	信頼と活力を生む開かれた学校づくりを推進する。
6	教職員はサービス規律を遵守し，働き方改革を推進する。

5 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
1 学び続ける態度の育成と学力向上	① 学び続ける態度の基本となる予習と復習を徹底させ，家庭学習ゼロをなくす。 ② わかる授業を目指し，言語活動を取り入れ，主体的・対話的で深い学びの実践を継続し，授業改善に取り組む。 ③ 年間指導計画を活用した学習指導の充実と評価の改善を継続する。
2 自分で決められる生徒の育成を目指し，それを支援するための個に応じた進路指導の充実	④ 面談指導を重ね，生徒の自己理解と早期の目標設定を推進する。 ⑤ 進路学習，就業体験を通して，望ましい勤労観・職業観を育成する。 ⑥ 進路ガイダンス・大学見学会・外部模試の活用を通して，入りたい学校に積極的に挑戦する心を涵養する。 ⑦ 課外等を通して粘り強くあきらめない学習者の育成を図る。
3 規範意識及び安全に関する態度の育成	⑧ ルールを守り，マナーを向上させ，規範意識を高める。 ⑨ 登校指導や自転車乗車を指導し，交通安全を徹底させる。 ⑩ スマートフォン等の安全な利用やルール作りを推進する。 ⑪ 家庭・地域社会及び関係機関と連携し，情報の共有を図り，事故の未然防止に努力する。
4 キャリアパスポートを活用し，素直に感謝する気持ちを育み，豊かな人間性・社会性を身に付けさせるなど，自己のキャリア形成に生かそうとする態度の養成	⑫ ホームルーム活動で，自己の強みや得意分野を認め，自己の成長を促す。 ⑬ 特別活動・部活動を通して，自己の強みや得意分野を認め，自己の成長を促す。 ⑭ 道徳・教育相談を通して，自己の強みや得意分野を認め，自己の成長を促す。
5 信頼と活力を生む開かれた学校づくりの推進	⑮ 保護者，地域社会及び中学校等に対する広報活動の充実に努める。 ⑯ 学校Webページ，県のフォトニュース，進路ニュース，学年通信等を活用する。

	用して，積極的な情報提供に努める。 ⑰教育活動を公開するとともに，外部評価や広聴活動により取り組みの改善に努める。
6 教職員は服務規律を遵守し，働き方改革を推進	⑱日頃のコミュニケーション等を通して教職員の良好な関係を作り，学校諸課題に「チーム」として対応する組織作りをさらに進める。 ⑲ICTの活用により，職員会議・成績処理・教材準備の効率化を図る。 ⑳コンプライアンス意識を持って行動する。 ㉑PDCAサイクルによる評価・改善を行いながら働きやすい職場作りに努め，働き方改革を推進する。